

平成24年度
エコツアーリズム推進アドバイザー派遣事業

募集要領

平成24年9月 環境省

(業務委託先 公益財団法人日本交通公社)

目次

1	アドバイザー派遣事業の概要.....	1
1-1	目的.....	1
1-2	事業内容.....	2
1-3	想定されるアドバイスの内容.....	5
2	申請方法及び派遣地域の選定方法について.....	6
2-1	申請方法について.....	6
2-2	派遣地域の選定方法.....	7
	参考資料1 エコツーリズム推進アドバイザー一覧（五十音順）.....	8
	参考資料2 アドバイス可能な分野.....	21

1 アドバイザー派遣事業の概要

1-1 目的

本事業は、環境省が実施する「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業関連業務」の一環として、エコツーリズムに取り組む地域に対して、専門知識や取組経験を有するアドバイザー（以下、アドバイザーとします）による助言や指導を行うことで、地域毎の個別の状況や課題の解決に向けた支援を行うことを目的としています。

なお、本事業の実施にあたっては、公益財団法人日本交通公社が、環境省から委託を受けて事務局業務を担当しています。

◇エコツーリズムとは

- ・ 観光旅行者が、自然観光資源について知識を有するものから案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動をいいます。
- ・ エコツーリズム推進法、全体構想認定団体の取組、その他環境省の事業については、環境省のエコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」をご参照ください。
- ・ 昨年度のエコツーリズム推進アドバイザー派遣事業の内容についても、環境省のエコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」をご参照ください。

※環境省エコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」

<http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/>

◇事業実施主体

環境省 自然環境局総務課自然ふれあい推進室

- ・ 担当：小林、小野
- ・ 電話：03-5521-8271（直通）

◇「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」事務局（申請先／問い合わせ先）

公益財団法人 日本交通公社

- ・ 担当：観光調査部 吉谷地（よしやち）、大隅（おおすみ）、山田（事務担当）
- ・ メール：eco-jimu@jtb.or.jp FAX：03-5255-6077

1-2 事業内容

本事業では、エコツーリズム推進に取り組む地域からの申請に基づき、以下のような方法で、アドバイザーを派遣します。

■本事業の流れについて

9月5日～9月19日	①派遣地域の募集
9月下旬～	②派遣地域の決定
	③派遣地域とアドバイザーのマッチング
10月～1月頃（随時）	④アドバイザー派遣の実施
2月	⑤アドバイザー報告会の開催

① 派遣地域の募集

- ・ 地域より派遣申請書（別紙）を提出していただきます。
- ・ アドバイザーは、各申請地域それぞれが抱えるエコツーリズム推進上の諸課題や、取組の熟度に応じたアドバイスができるよう、幅広い分野の有識者に予め就任をお願いしています（※巻末の参考資料1、2をご参照ください）。
- ・ アドバイザーは、複数人（2名程度迄）・複数回（3回程度迄）派遣することも可能です。但し、申請状況や、アドバイザーの都合等によっては調整をお願いすることがあります。
- ・ なお、環境省が就任をお願いしているアドバイザー以外でも、申請地域で派遣を希望する有識者について、一定の基準の下で、アドバイザーとして派遣を行うこともできます。（※なお、その場合、申請地域が識者へのアドバイザー就任依頼を行うこととします。）

◇環境省が就任をお願いしているアドバイザー以外の有識者を派遣する場合の基準

- ・ エコツーリズムの推進において有益な助言を得られることが期待できる有識者で、下記のいずれかに該当していることを基準とします。
 - 申請地域が助言を求める分野への専門性を有していること。
 - 地域の実情に精通していること。

② 派遣地域の決定

- ・ 派遣申請書に基づいて環境省が派遣地域を選定します。
- ・ 申請内容に不明点がある場合は、個別にお問い合わせをいたします。また、必要に応じて、申請書以外に追加資料の提供をお願いする場合がございます。

③ 派遣地域とアドバイザーのマッチング

- ・ 派遣実施が決定した地域について、地域とアドバイザーのマッチングをします。日程の変更、アドバイザーの変更等をお願いする場合がございますので、ご了承ください。
- ・ アドバイザーが決定した地域には、派遣の詳細スケジュール等を含む派遣実施計画書を作成・提出していただきます（※事業主旨や事業の有効活用等の観点から、環境省より改善をお願いする場合がございます。）

④ アドバイザー派遣の実施

- ・ 派遣実施計画に基づき、アドバイザーが現地を往訪し、アドバイスをを行います。
- ・ アドバイザーが現地を訪問し地域の実状に応じて個別に指導・助言を行います。
- ・ 派遣終了後、地域及びアドバイザーから実施結果報告書を提出していただきます（実施結果報告書を取りまとめて、事例報告集を作成し、環境省のエコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」で公開します）。

⑤ アドバイザー報告会の開催

- ・ アドバイザー派遣の実施を踏まえて、アドバイザー報告会を開催します。
- ・ 派遣実施地域の中から、5名程度（アドバイザー及び地域の担当者）に報告をしていただきます。
- ・ 報告会の傍聴については、エコツーリズムに関心がある方に広く呼び掛けることとします（50名程度を想定）。
- ・ 派遣実施地域の報告会への参加は任意です。
- ・ 開催時期は平成25年2月、場所は東京都内を想定しています。決定次第、環境省のエコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」で通知します。

※環境省のエコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」

<http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/>

■派遣実施時期について

- ・ 平成24年10月～平成25年1月頃を予定しています。

■派遣地域数について

- ・ 本事業内で上限30地域（回）までの派遣を予定しています。

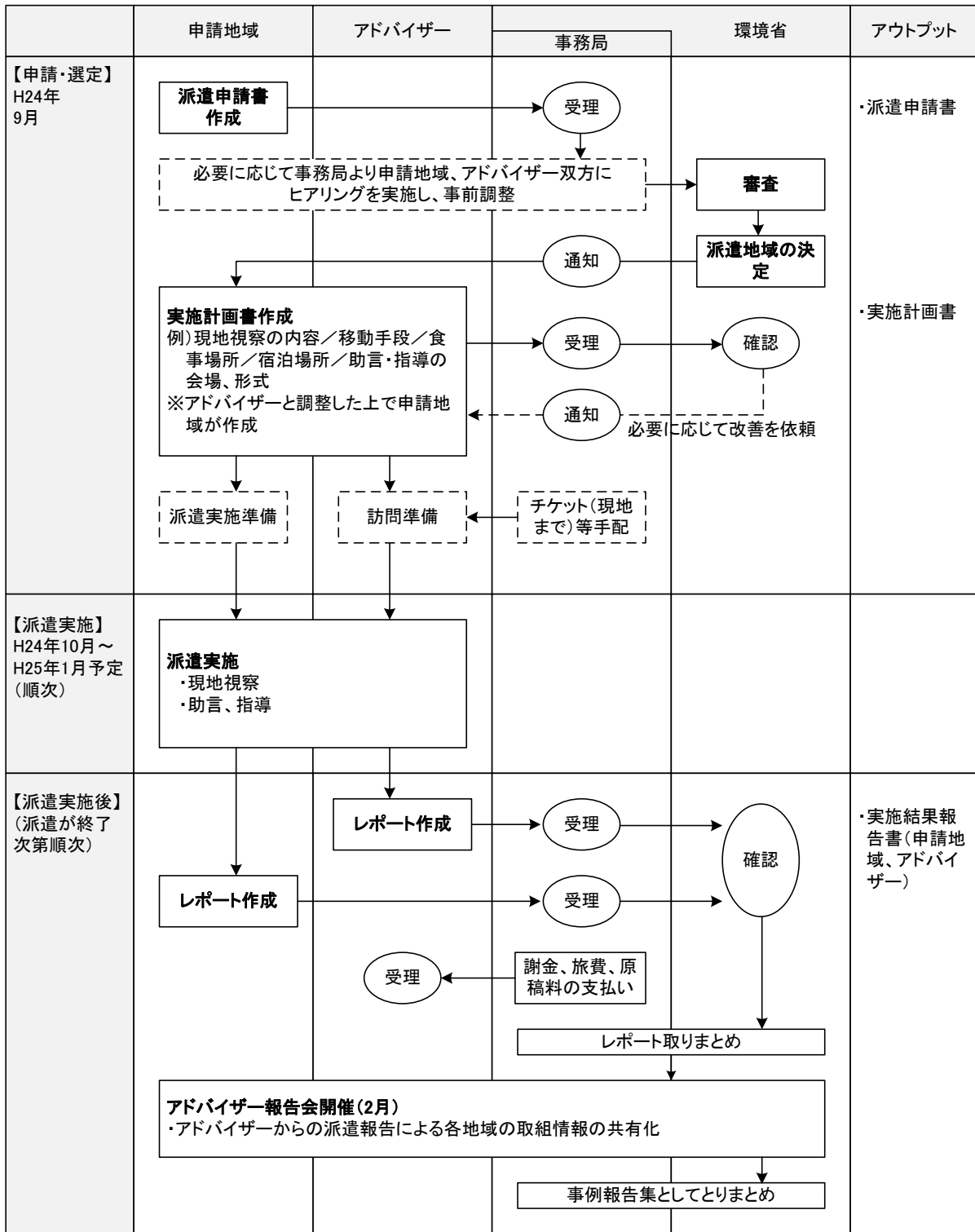
■派遣にかかる経費について

- ・ アドバイザーの旅費（現地までの交通費、現地での宿泊費※前後泊も含む）及び謝金を環境省（事務局）が負担します。
- ・ 上記以外の費用（現地での移動費用、施設利用料、入場料、その他アドバイスの実施にあたって現地で発生した費用等）については、取組地域にてご負担いただきます。

■その他

- ・ 派遣の実施にあたっては、基本的に環境省及び事務局は同行しません。アドバイザーの現地での移動、説明等の同行は、派遣地域側でご対応をお願いします。

図 本事業の流れ



1-3 想定されるアドバイスの内容

本事業では、アドバイザー派遣を通じて下記のようなアドバイスを行います。なお、アドバイスの具体的な内容は、選定後に個別に調整します。

エコツーリズムに関する意識啓発、資源の発掘	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツーリズム（観光を含む）に対する意識・啓発 ・ 自分たちが暮らす地域に対する意識・啓発、地域住民の参加 ・ 地域資源の発見・発掘
ガイド人材の育成、ガイド制度づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドの役割に対する認識 ・ ガイドの方法 ・ ガイドの人材育成と品質維持 ・ ガイド認定制度 ・ ガイドの後継者問題 ・ ガイド同業者団体の設立
利用と保全の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用と保全のルール・仕組みづくり ・ オーバーユースに対するルール・保全手法の改善策 ・ 保全にかかる費用の捻出策 ・ 適正な取組地域の範囲（適正規模のゾーニング） ・ モニタリング
観光教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光教育の実施
地域が協働する推進体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツーリズム推進の核となる人材の育成・組織の設立 ・ 多様な主体間の連携、利害関係の調整、合意形成 ・ 行政と民間との役割分担 ・ 他地域との連携
エコツアーの商品化と事業化	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツアーの作り方 ・ エコツアーの情報発信 ・ エコツアーを業として成り立たせるための仕組みづくり ・ エコツアーの国際化・外国人の受入体制づくり
フィールド環境の整備・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールド環境の整備・計画
環境省施策・事業の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツーリズム推進法の活用方法

2 申請方法及び派遣地域の選定方法について

2-1 申請方法について

■アドバイザー派遣を申請できる団体

下記のような団体が申請できます。不明点は、事務局（P1に記載）までお問い合わせください。

①エコツーリズムや、地域の観光振興を図る目的で組織された協議会	(例) ○○地域エコツーリズム推進協議会、○○地域ジオパーク協議会など
②地域の観光協会、観光連盟、商工会議所、市町村の担当課など	(例) ○○観光協会、○○観光連盟、○○商工会議所、○○市地域振興課など
③広域圏で形成された①、②の団体	(例) ○○観光圏、○○広域観光連盟、○○広域協議会など

※個別の団体・企業による職員向けの研修・勉強会を目的とする場合は対象外となります。

※申請主体又は関係団体として市町村の行政機関が参画していることが必須となります。

■応募申請にかかる書類について

- ・ 応募書類の様式（派遣申請書 他）は、環境省エコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」（<http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/>）からダウンロードできます。
- ・ 必要事項を記入し、必要資料等を添付の上、応募期間内に事務局（P1に記載）まで提出してください。

■応募期間について

- ・ 平成24年9月5日（水）～平成24年9月26日（水）
- ・ 定数に満たない場合は、二次募集を行う場合があります。二次募集の実施については環境省のエコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ」で通知します。

■応募書類の提出先・お問い合わせ先について

- ・ 応募書類は、電子メール（またはFAX）で、事務局（P1に記載）に提出してください。
- ・ お問い合わせは、所定の質問用紙（別紙）により電子メール（またはFAX）でお願いします。

※ 提出された応募書類は本事業に関する目的以外には使用しません（個人情報保護に関するポリシーについては、公益財団法人日本交通公社のホームページをご参照ください）。また、応募書類は返却しません。

※ 応募書類は日本語でご記入ください。なお、申請書の様式を変更せずにご記入ください。（記載内容に応じて、枠を広げることは可。）

2-2 派遣地域の選定方法

■派遣地域の選定方法について

- ・ 下記基準に基づき、地域間のバランスや資源性のバランスも考慮した上で、総合的に審査し、選定します。なお、選定にあたっては、必要に応じて申請地域、アドバイザーの双方に対してヒアリングを行う場合があります。
- ・ 選定結果は、審査後、速やかに当該申請者に対して通知します。

◇選定基準

- ・ 応募資格を満たしていること
- ・ エコツーリズムに取り組む目的が明確であること
- ・ 多様な主体が連携しながらエコツーリズムを持続的に取り組む体制がとれること
- ・ 地域の現状や課題に対し、アドバイスを希望する内容が明確であること
- ・ アドバイザーの助言や指導を取組に反映させる仕組みがあること

■選定後の留意点について

- ・ 選定後の留意点は、改めて個別に説明を行いますが、あらかじめ下記にご留意ください。

◇実施計画書の作成

- ・ 派遣が決定した地域は、アドバイザーとの間で、直接連絡調整を図っていただき、具体的な視察内容や行動予定を表した「実施計画書（様式は別途）」を提出していただきます。
- ・ この際、視察の内容や助言・指導の形式などについて、事務局より必要に応じて改善の願いをさせていただくことがあります。

◇派遣の実施後

- ・ 派遣実施後に「実施結果報告書（様式は別途）」を提出していただきます。
- ・ 上記は、「事例報告集」としてとりまとめ、環境省エコツーリズムポータルサイト「ツーリズムのススメ」で公開いたします。

※申請地域レポートの内容（予定）

- ・ アドバイザー派遣の実施概要（日時、場所、アドバイザー、参加者、アドバイス方法）
- ・ エコツーリズム推進の取組の現状
- ・ アドバイスの内容（議事録）
- ・ アドバイザー派遣実施の効果
- ・ 参考となった事項、その他感想（全体で1,600字程度に取りまとめ）

※昨年度版の事例集については、環境省のエコツーリズムポータルサイト「エコツーリズムのススメ（<http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/>）」をご参照ください。

参考資料1 エコツーリズム推進アドバイザー一覧（五十音順）

氏名	愛甲 哲也 氏
役職	北海道大学大学院 農学研究院 准教授
専門分野	造園学、特に公園の計画・管理
略歴	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションによる自然環境へのインパクトや、自然保護地の管理を中心に研究。大雪山の登山道管理水準、利尻山の登山のあり方検討、沖縄県の持続可能な観光地づくり、知床世界遺産のエコツーリズム戦略、礼文島の生物多様性戦略などに関わり、自然観光地の適正利用について研究と実践を行っている。また、市民団体「山のトイレを考える会」事務局長として、ローインパクトな登山の普及に取り組む。 主な著作：分担執筆『山のデータブック』NPO 法人山の ECHO 2006、編著『自然公園シリーズ：利用者の行動と体験』古今書院 2008、分担執筆『地域資源を守っていかすエコツーリズム 人と自然の共生システム』講談社 2011 など。

氏名	安類 智仁 氏
役職	財団法人尾瀬保護財団 企画課主任
専門分野	環境収容力（キャリングキャパシティー利用者の快適性から算出した適正収容力）、環境教育、ガイド育成
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 尾瀬国立公園の意見調整・管理運営・適正利用を目的として活動する「尾瀬保護財団」職員として、特定の時期や場所に入山が集中している 現状を踏まえ、利用者の快適性の観点から公園利用あり方を調査研究している。 プロジェクトワイルド・ファシリテーター、自然公園指導員等の様々な資格を有し、自身もガイドとして活躍。 地元行政やガイド事業者とともに「尾瀬ガイド協会」を設立し、協会事務局と認定審査委員を担当。尾瀬のエコツーリズム推進のための自然ガイド・登山ガイドを認定・育成している。

氏名	江崎 貴久 氏
役職	有限会社オズ 代表取締役／旅館 海月 女将
専門分野	既存の従来型観光地でのエコツーリズムの推進。地域の自然、歴史・文化を活かしたエコツアーの実践。
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 2000年に「海島遊民くらぶ」を立ち上げる。同くらぶの推進している“島民や地元住民への気配りをガイディングに組み込みながら、地元の人々と積極的に交流し、“地域の魅力を十分発揮できるように心がけられたエコツアー”や、“他団体との自主ルール共有化”、“インフォメーションセンターの設立”などが、他地域でもエコツーリズム推進の参考となる。同くらぶは「エコツーリズム大賞」（環境省）において、第2回「特別賞」、第3回「優秀賞」、第5回「大賞」を受賞。 「平成19年度エコツーリズム推進に関する基本方針検討会」（環境省）の委員を務めるなど、日本のエコツーリズムを牽引する役割を担う。 鳥羽若女将うめの蓄会設立。既存の観光業者や市行政との理念の共有化をはかる。 2010年7月8日 鳥羽市エコツーリズム推進協議会設立、会長に就任。 2011年石川県里山づくり推進協議会専門委員会 委員就任 2012年NPO法人日本エコツーリズム協会 理事就任 <p>【その他、これまでの公職】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境省エコツーリズム推進有識者会議 委員 三重海区漁業調整委員会 委員 三重県の観光振興のあり方検討懇話会 委員 鳥羽市観光基本計画推進協議会 委員 等、多数の委員を務める。

氏名	大木 公彦 氏
役職	鹿児島大学名誉教授、桜島ジオパーク研究会座長
専門分野	地質学、ジオツーリズム、ジオパーク、エコミュージアム
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島大学総合研究博物館長、鹿児島大学総合研究博物館・教授、大学院理工学研究科・教授を歴任し、2012年3月退官。現鹿児島大学名誉教授。 地質学（微古生物学、堆積学、後期新生代層位学）が専門。 地質の視点から、地域の食や暮らし、文化・歴史、産業、ツーリズムなどを捉えて、普及啓発活動に取り組んでおり、各地で講演や、自然体験ツアーのガイド等も行っている。 主な著書として、『日本全国沿岸海洋誌／共著』、『NAUTILUS The Biology and Paleobiology of a Living Fossil／共著』、『鹿児島県地学のガイド(上・下)／編集・共著』、『日本の地質9 九州地方／共著』、『写真集 地球からのメッセージ 鹿児島／編集代表者・執筆(写真)』、『鹿児島湾の謎を追って』、『日本の地質 増補版／共著』、『鹿児島観光・文化検定 公式テキストブック「かごしま検定」／共著』、『郡山郷土史／共著』、『鹿児島シラス百景／監修』、『日本地方地質誌8：九州・沖縄地方／編集委員・共著』などがある。

氏名	緒川 弘孝 氏
役職	観光・地域づくり研究員
専門分野	エコツーリズム、観光地づくり、地域振興、観光計画
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1967年長崎県生まれ。東京大学大学院農学系研究科林学専攻修士課程修了。 ・ 1994～2001年(株)リージョナルプランニング（観光振興のコンサルタント会社）、2001年立教大学観光学部非常勤講師。2001年よりフリーランスとして、全国各地でエコツーリズムをはじめとする観光地域づくりや地域振興のプランニング、政策提言、調査・研究等に携わる。 ・ 主な著書に『これからの観光地域づくりのための手法』（社）日本観光協会／2001年(共著)、『エコツーリズム さあ、はじめよう！』（財）日本交通公社／2004年(共著)、『コミュニティ・ベースド・ツーリズム事例研究～観光とコミュニティの幸せな関係性の構築に向けて～』CATS 叢書第3号／2010年(共著)、主な訳書に『自然保護とサステイナブル・ツーリズム』平凡社、2005年（共訳、原著はIUCNガイドライン）がある。

氏名	海津 ゆりえ 氏
役職	文教大学 国際学部 准教授
専門分野	エコツーリズム、サステイナブル・ツーリズム、まちづくり
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツーリズム推進の草分け的な存在であり、エコツーリズムに関する造詣が深い。環境省や地方自治体のエコツーリズム関連調査、資源調査、開発コンサルティングを数多く手がける。（例：西表島、南大東村、二戸市、宮古市、美郷村・上勝町、小笠原村、ガラパゴス諸島、フィジーアンバザ村）。環境省エコツーリズム推進モデル地区「裏磐梯」では、協議会運営と事業実施にあたり地域とともにその中心的な役割を担った。 ・ NPO 法人日本エコツーリズム協会理事、「平成 15 年度エコツーリズム推進会議」（環境省）の幹事会委員、「エコツーリズム大賞」審査委員会委員（第 1 回～）、日本観光研究学会「エコツーリズムと持続可能な観光の応用研究分科会」研究代表（平成 19～21 年度）、「平成 19 年度エコツーリズム推進に関する基本方針検討会」（環境省）委員を務めるなど、日本のエコツーリズムを牽引する役割を担う。 ・ 著書に『エコツーリズムの世紀へ』（日本エコツーリズム協会、編著）、『日本エコツアー・ガイドブック』（岩波書店）、『はじめての国際観光学』（創成社）ほか。

氏名	加藤 誠 氏
役職	株式会社ジェイティービー旅行事業本部観光戦略部長
専門分野	観光を基軸とした地域活性化事業全般（地域資源を活用したニューツーリズムの造成、組織・人材づくり等）
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1988年(株)ジェイティービー入社、2002年(株)ジェイティービー東日本営業本部国内旅行政策課長、2006年同社旅行事業本部地域観光開発課長などを経て、2008年同社旅行事業本部地域交流ビジネス推進部長。2011年同社旅行事業本部地域交流ビジネス統括部長。2012年同社旅行事業本部観光戦略部長。現在に至る。 ・ 専門は観光を基軸とした地域活性化事業全般（地域資源を活用したニューツーリズムの造成、組織・人材づくり等）。 ・ 2000年にはJR東日本本社に出向し、現在もJR東日本のシニア戦略の柱である「大人の休日」を立ち上げるなどシニアマーケティングに対する造詣が深い。 ・ 2006年以降は、これまで蓄積してきた知見に基づき、国土交通省「観光立国戦略会議」ワーキングチーム、「創意工夫豊かな地域の企画旅行商品の流通促進に関する検討委員会」、「船旅魅力再生委員会」、「ユニバーサルデザインの考えに基づく観光促進事業」、観光庁「国内観光旅行の振興に関する連絡会議」、農林水産省「グリーンツーリズム推進連絡会議」「農業漁業体験民宿安全管理委員会」、経済産業省「観光・集客交流拡大要因研究会」「ラグジュアリートラベルマーケット」「メディカルツーリズム」委員等を務めると共に、青森県、成田市、伊豆市、奥日光等の自治体のアドバイザー、TIJ・JATA・日本観光協会・まちむら交流きこう等の関係団体委員を歴任。

氏名	川嶋 直 氏
役職	公益財団法人キープ協会 環境教育事業部シニアアドバイザー
専門分野	専門のキーワード「環境教育、環境コミュニケーション、インタープリテーション」参加体験型教育手法、環境コミュニケーション系イベントの企画運営及び人材養成。自然学校の経営。
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1953年東京生まれ。1980年財団法人キープ協会に就職。1984年から環境教育事業を担当。1998年～2010年まで同財団常務理事。「自然と人との橋渡し役」といわれる「インタープリテーション」が仕事。環境教育・野外教育・森林環境教育の指導者やインタープリターの養成事業の企画・運営を担当する。 ・ 立教大学大学院院異文化コミュニケーション研究科兼任講師。（公社）日本環境教育フォーラム常務理事。日本環境教育学会理事。（NPO）自然体験活動推進協議会理事。2005年には愛・地球博 森の自然学校・里の自然学校統括プロデューサー。平成20年度文部科学省社会教育功労者表彰受賞

氏名	神田 優 氏
役職	NPO 法人黒潮実感センター センター長／理事
専門分野	海洋生物学、魚類生態形態学、環境教育、自然と共生する地域づくり、エコツーリズム、里海論
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国西南端の島・柏島を「島が丸ごと博物館」と捉え、持続可能な「里海づくり」という新鮮な観点で人と海が調和していくための、地元を巻き込んだ取り組みローカルルール「柏島里海憲章」の作成、漁業者と協働した海の活用、アクティビティの充実、新たな保全事業（海中でのモニタリング等）の実施、参加者の範囲の拡大などは、他地域でもエコツーリズム推進の参考となる。 ・ 「NPO 法人黒潮実感センター」センター長理事のほか、高知大学黒潮圏総合人間自然科学研究科客員准教授（平成 19 年 10 月～）、神戸大学非常勤講師（平成 22 年 10 月～）「環境省竜串地区自然再生事業技術支援委員」（平成 15 年 4 月 1 日～）、「NPO 法人環境の杜こうち理事」（平成 18 年 3 月 9 日～平成 22 年 3 月 31 日）などの要職を歴任。同センターは「エコツーリズム大賞」にて第 1 回「特別賞」第 2 回「優秀賞」受賞。第 6 回「大賞」受賞。2012 年第 5 回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）受賞。

氏名	城戸 基秀 氏
役職	財団法人日本生態系協会 地域計画室長
専門分野	自然と共生する地域づくり・まちづくり、自然を活かした地域振興、技術士（建設部門：都市及び地方計画）
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで、自然を活かした地域振興や自然再生計画、ビオトープ計画、緑地保全計画、自然型公園計画、緑の基本計画などを手がける。また、市民参加型の自然イベントの運営などに日ごろより携わる。 ・ 平成 16 年より、環境省エコツーリズム推進モデル事業地区である「飯能名栗地区」において、推進支援機関の責任者として、里地里山タイプのエコツーリズムについて地域密着型の推進支援を行っている（継続中）。 ・ ほかに「田尻地区エコツーリズム推進協議会委員」や「エコツーリズム推進マニュアル改定に関するワーキンググループ委員」などを務める。

氏名	木村 宏 氏
役職	NPO 法人信越トレイルクラブ 事務局長 (一般社団法人信州いよいよま観光局事業課長兼企画開発室長)
専門分野	地域資源活用型の観光推進・自然資源を生かした観光メニューの構築 宿泊・交流施設の運営・着地型商品の開発
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホテル・リゾート開発企業に勤務後、飯山市のグリーンツーリズム事業に参加し、1997年飯山市のGT中核施設「なべくら高原・森の家」を開設し、運営に携わる。 ・ 住民やボランティア参加型の手法でロングトレイルの構築を行ってきた、「信越トレイルクラブ」が第4回エコツーリズム大賞優秀賞を受賞。 ・ グリーンツーリズムの展開の裾野を広げ、飯山という過疎地域において自然資源や生活資源、また健康をテーマとした新商品の開発をおこない地域の魅力提案を行ってきた実践者。 ・ 「地域資源の総合的活用・連携実践マニュアル作成委員会」「GT商品研究会」(農水省)、「ストック資源を活用した広域交流圏形成推進調査委員会」(国交省)、「生物多様性に係る地域住民と連携強化に関する検討会」(林野庁)などの委員歴任。

氏名	熊谷 嘉隆 氏
役職	国際教養大学 国際連携部長／地域環境研究センター長／教授
専門分野	持続的観光と地域振興、自然公園における環境収容力、内発的地域活性
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道生まれ。中部山岳国立公園の山小屋での就業経験とヒマラヤ山麓における観光推進とその社会・生態的影響を観察したことが、観光推進と保全について考えるきっかけとなる。 ・ 1990年に渡米し、州立モンタナ大学森林学部で自然公園における管理運営や環境収容力に関する研究をした。その後、オレゴン州立大学森林学部森林資源学科で博士号(Ph.D.)取得。ワシントン州立大学農学家政学部勤務を経て2004年、国際教養大学助教授に就任し、2007年より現職。

氏名	敷田 麻実 氏
役職	北海道大学観光学高等研究センター 教授
専門分野	エコツーリズムと地域資源の活用・保全、推進体制の構築
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 1960 年、石川県加賀市大聖寺生まれ。高知大学農学部栽培漁業学科卒業後、1983 年より石川県水産課に勤務。その間、1990 年から 1 年間オーストラリアのジェイムスック大学大学院に留学し、沿岸域管理学を専攻。帰国後、金沢大学大学院社会環境科学研究科博士課程修了、博士号を取得。1998 年石川県庁を退職し、金沢工業大学環境システム工学科助教授、2002 年から同教授。2004 年から金沢工業大学情報フロンティア学部情報マネジメント学科教授。2007 年 4 月から北海道大学観光学高等研究センター教授。野生生物保護学会前会長。専門はエコツーリズムと地域マネジメント。 著作に、エコツーリズムの基本を解説した敷田編著(2008)『地域からのエコツーリズム』(学芸出版社)、地域ブランディングについての敷田ほか編著(2009)『観光の地域ブランディング』、地域資源に関する敷田・森重編著(2011)『地域資源を守っていかすエコツーリズム』ほかがあり、関係する論文に敷田(2010)『生物資源とエコツーリズム』があります。 石川県庁での 15 年間の行政経験があるので、行政の事情をよく理解したうえで、地域におけるエコツーリズムの推進について相談することができます。また、水産や海の利用について詳しいので、このフィールドのことでよく相談できます。 私の HP(http://www.cats.hokudai.ac.jp/~shikida/)をご覧ください。なお、「敷田」で検索するとすぐ見つけられます。そこから質問のためのメールも送れますのでご活用下さい。 知床世界自然遺産地域における「エコツーリズム戦略」を座長として担当しており、地域の関係者参加で、エコツーリズムを進めるための体制や、システム、しくみの構築が支援できます。また地方公務員として豊富な行政経験があり、行政のしくみも理解した上でのアドバイスが可能です。

氏名	ケビン ショート 氏
役職	東京情報大学環境情報学科 教授
専門分野	自然と文化との関わり(民族植物学、資源管理、伝承・精神文化など)、外国人旅行者への日本の魅力の伝え方(視点、ガイドのポイント、紹介資料の作成、情報の発信など)
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 1949 年アメリカ生まれ。1972 年に初来日し、上智大学卒業後、アラスカ大学修士課程に学ぶ。1991 年スタンフォード大学人類学部の博士号を取得。 現在は千葉県印西市を拠点に里山の自然と文化を研究し、自然観察会、講演活動を通して里山や里海のインタプレテーションに関わる一方、テレビ・ラジオへの出演、新聞・雑誌で自然史・旅のライターとしても活躍。東京情報大学教授として文化人類学と環境資源論の講義も行っている。 著書は「ケビンの里山観察日記」(講談社)、「NATURE IN TOKYO」(講談社)、「ドクター・ケビンの里山ニッポン発見記」(家の光協会)などがある。

氏名	鈴木 順一郎 氏
役職	環境カウンセラー（広報戦略）、エコツーリズムアドバイザー、環境映像ディレクター・プロデューサー、フォトグラファー
専門分野	環境保全と地域活性における広報戦略全般
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 1981年、東京工芸大学短期大学部卒業後、テレビ・ラジオ番組制作・プランニングに携わり、環境特番などを担当。2001年広告代理店勤務を経て、2004年よりフリーランスで本格的に環境教育や環境広報の活動を開始。「やんばるの森を救え」「インド山岳民族ハニーハンター映像演出」「3Rの本当の理由」等を作成。 その後、環境省「エコドライブ映像」「国立公園紹介 VTR 演出・環境省洞爺湖町の環境への取り組み映像演出（G8 洞爺湖サミット用）」「エコツーリズム学習映像」等、多数制作。 2006年より本格的にエコツーリズム映像制作に携わる。「自然公園ふれあい全国大会アドバイザー」「生物多様性 COP10 伊勢湾キックオフシンポジウム演出」「日本のラムサール湿地 COP10 用映像制作」「伊勢志摩国立公園 COP10 用映像及びパンフレット（デザイン）制作」「COP10 シンポジウム演出」他。 ESD 仙台広域圏地域震災後調査。東日本大震災以降、三陸復興国立公園に関する三陸被災地映像など、エコツーリズムの復興も含め1年余りにわたって取材・撮影を継続中。 多くの地域で「宝探し」を行い広報における訴求ポイントを探し表現する活動を行っている。 2005～2010年 環境省環境調査研修所講師（広報のポイント）、エコツーリズム推進法検討委員・エコツーリズム有識者会議委員他、多数歴任。 <p>※ エコツーリズム推進において大事なことは急ぎすぎないこと、また欲張り過ぎないこと。地域の宝をしっかりと見つめ直し、まずは一つから「息の長い宝」を育てること。地域の宝は時間をかけブランド化していけばブレずに進めます。沢山のツアーメニューはバリエーションとしては楽しいのですが手に負えなくなります。まずは一つの宝を見つけ出し、じっくり磨き、管理できる大きさで展開していくことが重要です。「宝探し」から始め、どのように磨き、どのように周知していくか、皆さんと一緒になって考えていきたいと思ひます</p>

氏名	高梨 洋一郎 氏
役職	株式会社ツーリズムワールド 代表取締役
専門分野	エコツアー、ニューツーリズム、サステナブル・ツーリズム、持続可能な観光開発、旅行業経営
略歴	<ul style="list-style-type: none"> トラベルジャーナル編集長などを経て1994年ツーリズムワールドを設立、海外旅行関係のオンラインマガジンの発行や旅行業向けのマーケティング活動を展開する。1998年日本エコツーリズム協会の設立に参画、初代事務局長として協会の基盤づくりに取り組む。現在同協会理事。立教大学観光学部非常勤講師などを経てサイバー大学教授に就任。日本旅行作家協会常任理事。 著書に「建国の舞台・米国バージニア」（日経 BP 社）、宝探しから持続可能な地域づくりへ」（学芸出版社：共著）、「エコツーリズムを学ぶ人のために」（世界思想社：共著）などがある。

氏名	高橋 充 氏
役職	株式会社南信州観光公社 代表取締役社長
専門分野	体験型観光の推進
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 北海道札幌市出身。茨城大学人文学部社会科学科卒業。 大手旅行代理店の教育旅行支店に勤務し、毎年、数校の修学旅行団を連れて飯田市を訪れる。2000年に飯田観光協会職員として飯田市に移住。翌年の(株)南信州観光公社設立より支配人として、体験型観光の企画・プロモーション・受入コーディネート及び地域連携システムの構築、販売ツールの作成等業務全般を担う。2004年より取締役、2009年専務取締役への就任を経て、2010年12月に代表取締役社長に就任した。 主な講演、アドバイザーは以下の通り。第3回国内観光活性化フォーラム・着地型旅行の仕組み(JATA'06)、エコツーリズム推進アドバイザー(05・06)、ニューツーリズム創出・流通促進事業推進協議会委員(07・08)、エコツーリズムフォーラム(09)他

氏名	寺崎 竜雄 氏
役職	財団法人日本交通公社 観光調査部長
専門分野	エコツーリズム、観光地の誘客、自然資源の管理と活用
略歴	<ul style="list-style-type: none"> 1963年富山県生まれ。筑波大学自然学類地球科学専攻、その後大学院では経営学を学ぶ。 1986年日本交通公社入社。観光分野を専門に扱うシンクタンクの研究者として、旅行者の動向調査や観光地振興の計画などに携わるとともに、94年頃からエコツーリズムの研究を開始、その後ライフワークとしてエコツアー(自然ガイドツアー)普及に向けた調査を行っている。

氏名	ブラッド トウル 氏
役職	一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー プロモーション事業部長・国際観光推進員
専門分野	外国人旅行者の視点を重視した魅力の発信 外国人旅行者の受入体制の構築、意識啓発 保存・保全を軸とする、地域に根差した観光地のための意識啓発
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1975 年カナダ・マニトバ州生まれ。マニトバ大学スポーツサイエンス学部卒業。世界 30 カ国以上を旅した経験を有する。和歌山県本宮町（現田辺市）に英語指導助手（ALT）として 1999 年から 3 年間滞在した後、カナダに帰国しプロのハイキングガイド、日本人ツアーガイド、スキーインストラクターを務める。 ・ その後、愛・地球博カナダ館のホスティングスタッフ、北海道でのスキーインストラクターを経て、2006 年に田辺市熊野ツーリズムビューロー国際観光推進員として再来日し、目的意識の高い外国人旅行者の誘客促進のため、また世界に開かれた質の高い持続可能な観光地を目指し、田辺市や熊野エリアの魅力発信と、受入地のレベルアップ、主に国内外の FIT（個人旅行者）を対象とした着地型旅行業に取り組んでいる。 ・ 同組織は、2012 年に行われた世界旅行ツーリズム協議会（WTTC）主催「明日へのツーリズム賞」（Tourism for Tomorrow Awards）選考会「Destinyネーションの管理」（Destination Stewardship）部門において、日本初の最終選考者に選抜された。

氏名	原 優二 氏
役職	風の旅行社 代表取締役
専門分野	エコツアーの商品企画とプロモーション&マーケティング
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1956 年、長野県生まれ。慶応義塾大学文学部哲学科卒業。 ・ 株式会社風の旅行社代表取締役。小学校の事務職員、教員を経て、1990 年、海外格安航空券販売専門の旅行会社・株式会社アクロス・トラベラーズビューローに勤務。1991 年独立し、風の旅行社を設立、代表取締役に就任。現在、一般社団法人日本旅行業協会(JATA)理事、NPO 法人日本エコツーリズム協会理事、旅行産業経営塾 OB 会会長。

氏名	阪野 真人 氏
役職	NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト
専門分野	エコツーリズム、自然保護と地域振興・観光振興の両立、まちづくり
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道の道東、霧多布湿原の保全を目的とした NPO 法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」にてエコツーリズムを担当。地域の自然、文化、人が主役となり、自然保護とまちづくりの両立を可能にするエコツーリズムの仕組み作りを地域住民と行う。 ・ NPO 法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」では、ナショナルトラストによる霧多布湿原民有地の買い取り、自然環境の保全と復元、ファンづくりを 3 つの活動の柱としている。ファンづくりの一環として霧多布湿原と、漁業・酪農という優れた一次産業をベースとしたエコツアーを開催し、まちづくりの手法としてエコツーリズムを発展させてきた。近年、企業とのパートナーシップや、それによるボランティアツアーの開催、また都市部に暮らす人々との連携による自然保護と地域振興のシステムづくりに取り組んでいる。同組織は、平成 19 年環境省「第 3 回エコツーリズム大賞」を受賞。

氏名	真板 昭夫 氏
役職	京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授
専門分野	生態学、資源管理論、地域開発論（環境影響評価・環境政策、エコツーリズム、環境資源管理）
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態学、資源管理論、地域開発論を専門として、最近では「人と自然とのふれあい」を地域資源を管理しながら、どう進めていくのかを主たるテーマとしている。学問分野での草分け的、かつリーダー的な存在である。 ・ 「NPO 法人日本エコツーリズム協会」理事、「平成 19 年度エコツーリズム推進に関する基本方針検討会」（環境省）の委員を務めるなど、日本のエコツーリズムを牽引する役割を担う。 ・ 研究業績（論文、解説等）…「エコツーリズムの実践における資源管理システムの研究」（学術雑誌、1997）、「フィジー諸島におけるエコツーリズム開発」（受託研究等、1995）、「ガラパゴスのエコツーリズム開発研究」（受託研究等、1998）、「大覚寺大沢池景観修復プロジェクト」（世界思想社、2009／日本観光研究学会賞受賞）、「宝探しから持続可能な地域づくりへ」（学芸出版社、2010）、「エコツーリズムを学ぶ人のために」（世界思想社、2011）

氏名	松田 光輝 氏
役職	株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役
専門分野	エコツーリズム、鳥類生態学
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ (財) 日本野鳥の会職員としてウトナイ湖サンクチュアリに 2 年勤務した後、知床自然センター ((財) 知床財団) に 15 年間勤務。退職後、(株) 知床ネイチャーオフィスを起業。同社は自然解説活動 (ネイチャーガイド) を通し、自然保護思想の普及・啓蒙、エコツーリズムの推進などさまざまな事業に取り組んでいる、知床エコツーリズムのキーマン。 ・ 知床の自然を科学的な視点から調査する研究者でもあり、その成果をわかりやすく観光客に伝えるガイドでもある。関係者の合意形成のためにと、地元ホテルの社長、漁業者との対話も重ねるなど、知床エコツーリズムのキーマンとして精力的に活動している。 ・ NPO 法人知床斜里町観光協会副会長、エコツーリズム推進委員会副委員長、NPO 法人日本エコツーリズム協会理事、北海道アウトドア協会理事、「北海道アウトドア資格制度」専門委員、「平成 19 年度エコツーリズム推進に関する基本方針検討会」(環境省) の委員を務めるなど、日本のエコツーリズムを牽引する役割を担う。

氏名	松本 毅 氏
役職	有限会社屋久島野外活動総合センター 代表取締役
専門分野	エコツアーガイドの養成・起業 エコツアープログラムの企画・運営 エコツーリズムの考え方、ガイドの位置づけ・組織化、地域資源の開発・活用、地域のルール作り
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1957 年 7 月 4 日 神戸生まれ。東京水産大学海洋環境工学科入学と同時に潜水部に入部するが 1 年で退部。東京で就職するが、30 歳で脱サラを計画。1987 年屋久島と出会い、10 月屋久島へ移住。ダイビングショップ「ワンダーランドダイバーズ」を開業。屋久島海洋生物研究会を発足、代表となる。 ・ 1993 年屋久島野外活動総合センター設立。屋久島ガイド連絡協議会初代会長、屋久島観光協会ガイド部会初代部会長を務める。現在、日本エコツーリズム協会理事ガイド部会長。屋久島町エコツーリズム推進協議会運営事務局委員・作業部会委員・全体構想策定部会員。屋久島観光協会理事。岡山理科大非常勤講師。

氏名	渡邊 法子 氏
役職	アイ・エス・ケー合同会社 代表
専門分野	多様な主体の連携・協働による地域づくり、地域が有している魅力や人材を活かしたエコツアーおよび誘客のしくみづくり
略歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2003年より NPO 法人全国まちづくりサポートセンター事務局長として京丹後市や東京都練馬区の地域振興に関わる。 ・ 2007年4月伊豆稲取の「稲取温泉観光協会」事務局長全国公募により1281名の中から選ばれ就任。「地域特性を活かした住民主体のまちづくり」をモットーに稲取温泉の地域再生を担う。2007年9月稲取温泉観光協会を主体とし地域住民を主軸にした地域企業「稲取温泉観光合同会社」を設立、旅行業登録し自主財源を確保しながら自立した観光地を目指す。 ・ 2010年5月 京都府丹後半島の京丹後市観光協会事務局長に就任。2010年10月市内に既存の「道の駅」に着地型旅行部門を新設し、地域住民らと共にジオツーリズム、東アジア圏からのインバウンドツアー受入事業の推進に取り組む。 ・ 2011年4月よりアイ・エス・ケー合同会社代表。京都府京丹後市や茨城県常陸太田市など、地域を主体とし地域の魅力や人材を活かしたツアーの造成および誘客のしくみづくり事業を推進。

参考資料2 アドバイス可能な分野

アドバイザー名		愛甲氏	安類氏	江崎氏	大木氏	緒川氏	海津氏	加藤氏	川嶋氏	神田氏	城戸氏	木村氏	熊谷氏	敷田氏	シヨト氏	鈴木氏	高梨氏	高橋氏	寺崎氏	トウル氏	原氏	阪野氏	真板氏	松田氏	松本氏	渡邊氏
エコツアーリズムに関する意識啓発、資源の発掘	エコツアーリズム（観光を含む）に対する意識・啓発	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		○	○		○		○	○	○	○	○	○
	自分たちが暮らす地域に対する意識・啓発、地域住民の参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○*1	○	○		○	○*1	○	○	○	○	○	○
	地域資源の発見・発掘			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*1	○	○	○			○	○	○	○	○	○
ガイド人材の育成、ガイド制度づくり	ガイドの役割に対する認識		○	○	○				○		○	○		○		○	○	○			○	○		○	○	
	ガイドの方法		○	○	○				○		○				○*2	○				○*2					○	○
	ガイドの人材育成と品質維持		○	○				○	○		○					○			○		○				○	○
	ガイド認定制度		○						○					○											○	○
	ガイドの後継者問題			○						○						○									○	○
	ガイド同業者団体の設立		○							○															○	○
利用と保全の仕組みづくり	利用と保全のルール・仕組みづくり	○	○	○			○	○		○	○	○		○		○	○	○	○			○		○	○	○
	オーバーユースに対するルール・保全手法の改善策	○	○	○					○				○	○		○	○	○	○						○	○
	保全にかかる費用の捻出策			○										○								○				○
	適正な取組地域の範囲（適正規模のゾーニング）	○	○	○												○	○									
	モニタリング	○	○				○			○	○			○		○										
観光教育の実施		○		○					○	○					○							○		○		
地域が協働する推進体制づくり	エコツアーリズム推進の核となる人材の育成・組織の設立		○	○			○	○		○	○	○		○		○	○	○			○		○	○	○	○
	多様な主体間の連携、利害関係の調整、合意形成		○	○		○	○	○		○		○	○	○		○	○	○			○		○	○	○	○
	行政と民間との役割分担			○		○	○	○			○	○		○		○	○	○			○	○	○	○	○	○
	他地域との連携			○		○		○				○		○		○	○	○			○		○			
エコツアーの商品化と事業化	エコツアーの作り方			○							○			○		○	○				○	○	○	○	○	○
	エコツアーの情報発信		○	○				○			○	○		○*3		○	○	○		○*3	○		○	○	○	○
	エコツアーを業として成り立たせるための仕組みづくり		○	○								○		○			○	○			○		○	○	○	○
	エコツアーの国際化・外国人の受入体制づくり													○*3		○				○*3						○
フィールド環境の整備・計画	○		○														○									
環境省施策・事業の活用			○			○				○					○	○			○				○			

※1 外国人旅行者の視点からみた地域の魅力 ※2 外国人旅行者に楽しんでもらえるためのガイドイング ※3 外国人へのエコツアーの情報発信/外国人旅行者の受入体制づくり